

令和6年度 愛媛県がん診療連携協議会 第3回 がん看護専門部会 議事録

令和7年1月28日(火)14:00~14:30

WEB 会議:四国がんセンターから発信

1. 開会

- 1) 部会長挨拶
- 2) 出席者紹介 (がん看護専門部会員から18名の参加)

2. がん看護実践能力向上研修の進捗状況報告及び課題

1) がん看護実践能力向上研修会報告 (資料1)

- ・9名の参加者があり、予定通り研修は終了した。
- ・最終評価については、1月30日に締め切りとしているため、中間報告となる。
- ・研修実施前中後に受講生による自己評価を実施しているが、研修前と事例発表後の評価をグラフに示している。
7段階評価であるが、「がんの基礎知識」、「多面的に対象をとらえる」、「ライフステージに応じた支援」、「エンドオブライフを見据えた支援」、「倫理的ジレンマへの対処」、「実践の評価ができるか」のすべての項目において自己評価は上昇していた。
- ・グループワークをオンラインから対面にしたことで、オンライン時と比較し、話し合うことで事象を深め、心理面の相互フォローなど行っており、実習担当者だけでは補いきれない部分の相互フォローができていた。
- ・修了式を対面で行ったことにより、その後のグループワークのディスカッションが活発になり、現状の課題を掘り下げやすくなっていた。
- ・今年度は時期的に問題にはならなかったが、実習時期によっては冷蔵庫の用意も必要になる。

<研修参加施設と研修企画委員施設の意見>

当院は3名が研修に参加した。認定看護師や専門看護師が教育的に関わってくれるなかで、研修生同士もディスカッションを行い、積極的に前向きな関わりができるようになった。3名の研修生から順調に進められたと報告を受けている。対面でディスカッションは大きなメリットと感じている。

2) トピックス研修：リフレクション集合研修 (資料2)

がん看護専門部会のトピックス研修として企画している。講師の先生と日程調整を行い、7月6日(会議後日程変更のため修正)に開催する予定である。講師は、日本赤十字広島看護大学学長の田村由美先生に依頼している。現地集合でリフレクションをテーマとしたワークを行う。対象は、がん看護実践能力向上研修会修了者とファシリテーターをしている企画委員を中心に、その他として愛媛県内で働くファシリテーターを担う機会のある看護師としている。

3) 令和7年度がん看護実践能力向上研修にむけて

R5年度の研修生1名が体調不良により研修スケジュールを修了することができなかった。該当者に対しては、R6年度の受講に際し、受講料はR5年度の受講費を繰り越すこと、ELNEC-Jは免

除。またその他の講義についても免除が可能との連絡をしていたが、その方は、今年度は様々な都合があり参加が困難であった。このような場合は、ア. 受講料の免除期間をどうするか、イ. 受講済みの講義の一部は参加しなくてもよいとはしていたが、講義内容が変わった場合は、初めから参加とするか、など企画委員会で検討していきたいと考えている。まずは、各施設の看護部長から意見をいただきたい。

→昨年度は感染症で実習ができなかったことが理由であった。がん看護専門部会としては、応募した人数を満たしていないこともあり、今後どう対応していくか意見をお願いしたい。

・看護協会のファーストレベル研修であれば、翌年度に参加可能な所もある。同様に考えると1年間の延長枠でよいと考える。

3. その他

1) 臨時企画委員会の内容について

①今年度の研修生1名が事例発表会を欠席したため、終了証の発行をどうするかを検討した。

事例発表会参加までが受講終了の要件である為、修了証発行をどうすべきか。該当者に関しては、事前発表会までに、課題レポートの提出はできており、状況を見ると当日参加できなかっただけで修了証を発行できないのは厳しすぎるのではないかと考えた。結果、発表を自施設で実施することで、修了証を授与することとした。該当者は自施設内での発表を終え、研修修了となり、その後フォローアップ研修にも参加されている。

②事例発表会の日程をどのように調整すれば、受講者にとってより良いかを検討した。

これまで最終閉会式の日だけ欠席する事例は無かった。それは全て集合で開催していた時代は実習最終日に合わせて事例発表会を行っていたため、実習途中で来られない方が修了できない研修生であった。また、閉会式がオンラインになってからは体調不良ではあるものの、参加可能ということが過去にもあったことを認識している。

この事例を踏まえ、事例発表会の日程はどうすればよいか考えた。研修生にとって事例発表をいつ行うのが良いか立ち戻ってみると、ア. 実習直後(学びが新しい内)に事例をまとめてすぐに発表する方法、イ. 実習終了後に自施設で事例をまとめていく方法。イの方法をコロナ禍から行っており、それぞれメリット・デメリットがある。アは、実習直後の新鮮な内にまとめて発表することができる。また、どのような患者かを知っている職員と一緒にまとめていく事が可能である。一方でまだ学びが深められていない段階で、発表しなければならないとも考えられる。また、当院の担当している職員がレポートのまとめに積極的に関わる必要がある。

日程案については、令和7年度9月2日~12日に実習をしたとして、直後に発表するのは難しい為、実習期間後の1週間後に発表するのが一つの案である。実習期間の約1か月後にあたる10月2日に発表することがもう一つの案になる。研修参加施設において、実習後自施設病院に帰ってから他の方の支援を受けながら事例をまとめることでメリットを感じている施設も見受けられた。各病院の看護部長にご意見をもらいたい。

- ・研修生のことを考えると、一旦持ち帰り、認定看護師や専門看護師の支援をもらいながらまとめるのがよいのではないかと考える。1か月後がよい。
 - ・一旦持ち帰り、振り返る時間が大切だと思う。現場に戻ると時間は少ないが、実習で得た学びを現場での患者と重ねながら考える機会がある。
 - ・研修終了後で終わりではなく、共に育つ場所で少し期間を開けて、現場でまとめていければと思う。
- 自施設に帰って、専門・認定看護師等の周りのスタッフと話し合い、共に考えることのメリットも大きく、また研修生の学びを深めるためにもある程度時間が必要だと感じた。研修内容を踏まえて次年度の計画を進めていく。各施設の企画委員においては、引き続きご協力をお願いしたい。
- 2) 今年度の研修においては訪問看護ステーションから1名の参加があったがどのような評価を得ているか
- ・訪問看護ステーションの関連施設として自施設実習を受け入れたが、まだ最終的な報告は受けていない。緩和ケア認定看護師を中心に支援を行い、化学療法等含めて現場の実習を行ってもらった。今後も協力していきたいと考えている。

令和7年度 がん看護専門部会 次回開催日程

2025年5月27日(火)